The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	庭木類の病害虫防除について
Author(s)	奥野, 孝夫
Citation	makoto. 1975, 10, p. 6-6
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86231
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

庭木類の病害虫防除について

大阪府農林技術センター
病害虫専門技術員　奥野孝夫

近年、環境保護の重要性が再認識され、その一環として緑化運動が強く推進されつつある。すでに各地に自然保護の団体が設立されたり、街を緑にする街ぐるみ運動も展開され、住みよい社会と人間性の回復に努力されている。このような緑化運動の推進にともない、今までほとんど問題にされなかった庭木類の病害虫も、またきわめて重要視されるようになり、その防除対策が強く要望されている。そこで紙上の関係から、ごく一般的な防除対策について、かんたんにふれて見たいと思う。何らかの参考にでもなれば幸甚である。

（斑点性の病害）　葉に斑点ができる病気で、その種類がきわめて多く、ほとんどすべての庭木類を侵かす。バクテリヤによる場合は斑点細菌病などと呼ばれている。しかし菌による場合がきわめて多く、セプトリア、サーコスポラ、ペスタロチア、などの属によるものが多い。斑点性の病害は多くの場合、その病原菌は前年の被害葉とともに土の表面で越冬し、環境が好適になると胞子が形成され、主として空気伝染し、または降雨時に水媒伝染して発病する。したがってこれらの被害の多いところでは秋季に庭を清掃することもよい。また葉上に斑点が生じた時、つまり発病を認めたら、なるべく早くジネブ剤、マンネブ剤、マンゼブ剤などの八〇〇ー一〇〇〇倍を七日おきに二ー三回散布する。このような葉剤散布はむしろ予防に重点をおくべきである。また発生初期の発病葉の除去、焼却も重要である。

（うどんこ病）　発病すると葉上にうどんこをふりかけたようになることからうどんこ病といわれている。病原菌は外部寄生菌でほとんどの菌糸が植物体の表面で繁殖し、ときどき吸器と呼ばれる養分吸収器官を気孔などから表皮近くの細胞内に入れ細胞を殺さずに養分を吸収している。うどんこ病菌もその種類はきわめて多く、侵される庭木類の種類もまた多いが、防除はいづれも発病期に病葉をつみ取って焼却するか。発病を認めたら二ー三回薬剤散布を行なう。薬剤は水和硫黄剤の五〇〇倍、モレスタン水和剤二〇〇〇ー三〇〇〇倍、ベンレート水和剤二〇〇〇ー三〇〇〇倍、トップジンM水和剤一〇〇〇倍液を散布する。また本病は他の病害と異なり、やや乾燥した時に発生が多いので、温室では発生環境にも注意が必要である。

（カイガラムシ類）　庭木類の最も重要な害虫で、ほとんどすべての樹木に寄生加害する。その種類もきわめて多く、外形、生態、寄生性なども種々様々である。これらのカイガラムシは普通、長い糸状の口吻をもっていて、これを植物組織中に入れて汁液を吸収加害する。これらの雌ははねやあしのないのが普通である。ただふ化したての幼虫はあしや触角があって、自分の住み場所を見つけるために盛んに歩きまわる。やがて定着してあしがとれ、口吻をさし込んで汁液を吸いはじめる。雌は一生その場所から動かないが雄はやがて成虫になるとあしやはねが生じ飛びまわる。一般に雌の背中に分泌されてできる殻の形や質によってカタカイガラムシ、マルカイガラムシ、フクロカイガラムシ、コナカイガラムシ、ロウムシなどと呼ばれている。防除は幼虫発生期に一ー二回、PAP剤、スミチオン剤などの有機りん剤の一〇〇〇倍液を散布する。ロウムシ類にはスプラサイド乳剤、カルホス乳剤の一〇〇〇倍液がよい。いづれも防除の適期を失しないことが重要である。また冬期のマシン油乳剤の散布も越冬幼虫に対して有効である。

（アブラムシ類）　庭木や草花の新芽新梢を加害する害虫で、時にはウイルス病を媒介する。防除は発生を認めたらなるべく早くエカチン乳剤、エストックス乳剤、PAP乳剤の一〇〇〇倍液を一ー二回散布する。また予防的にエチルチオメトン粒剤を新梢発生初期に土壌施用すると長期にわたって発生をおさえる事ができる。

（ハダニ類）　庭木類ではカンザワハダニ、チャノヒメハダニ、スギノハダニ、などが多く寄生加害する。いずれも寄生された部位は黄褐色になり、発生の激しい時は落葉したり、枯死したりすることが多い。普通七ー八月の高温乾燥時に多く発生を見る。しかし一年に多数の世代をくり返すから発生も急激で、薬剤に対する抵抗性の獲得もきわめて現われやすい。このことが薬剤散布による防除で他の病害虫よりも最も防除の厄介な害虫とされている。故に防除薬剤は同一薬剤の連用をさけ、なるべく系統の異なった薬剤のローテーションをはかることが最も得策といわれている。そのために現在市販されている殺ダニ剤の種類はきわめて多いが、そのおもなものを上げるとケルセン剤、アカール剤、テデオン剤、クロルマイト剤、ガルエクロン剤などで、いづれも一五〇〇ー二〇〇〇倍液で散布することが望ましい。

◇◇◇◇◇ 府政だより ◇◇◇◇◇

▲松原保健所新設（松原市）
四月一日業務開始

▲大阪府衛生部では次の主な行事を行ないます。

○ゴキブリ駆除強調月間
期間　六月中

○全国水道週間
期間　六月一日ー七日